

II 校務分掌・学年重点目標と達成手段

宮崎県教育基本方針		本県の教育は、あらゆる教育の場を通じ、教育基本法にうたわれている人間尊重の精神を基調として、 「たくましいからだ 豊かな心 すぐれた知性」 をそなえ、郷土に対する誇りと柔軟な国際感覚にあふれ、新たな時代を切り拓いていく気概を持ち、心身ともに調和のとれた人間の育成を目指します。						
学校経営ビジョン		自信と誇り、高い志を持つ自立した経済人の育成を目指し、地域および県民の負託にこたえる学校の創造 ― 経済の変化を察知し、対応するために学び行動し、経営活動に参画する職業人の育成 ―						
目指す方向性	目指す生徒像			目指す学校像				
	①キャリアビジョンを描き実現できる生徒 ②都商ならではの学びを実践できる生徒 ③地域の文化・産業の発展に貢献できる生徒	④地域社会の負託にこたえる学校 ⑤自立した品格ある経済人を育む学校 ⑥高い志と人間性を育むことができる学校	⑦変化を恐れず、常に前向きな教師 ⑧学問の本質や常識を的確に指導できる教師 ⑨時代の変化や地域のニーズに敏感な教師					
重点目標		達成手段				前期	後期	年間平均
1	キャリアビジョンを描き実現する生徒の育成	①授業改善(教える⇒考えさせる授業へ) ②教師の授業力向上 ③キャリアビジョンの構築と実現(メタ認知) ④朝読書の質的向上				2.8	2.9	2.9
2	自立した品格ある生徒の育成	①環境教育の実施と教育環境の整備 ②先輩からの都商イズム伝達(卒業生・在校生) ③礼節を重んじ、何事にも誠実に取り組む姿勢 ④教育環境の整備と施設設備の維持管理				2.8	3.0	2.9
3	高い志と人間性を身につけた生徒の育成	①公共施設でのマナー向上 ②美化意識の向上と施設・設備の充実 ③危機察知能力の育成 ④部活動を通じた高い人間性・人間力の育成				2.6	2.8	2.7
4	地域の文化・産業の発展に貢献できる生徒	①地域行事への参加奨励 ②地域と学校の連携・協働の充実 ③行政との連携強化 ④予算の計画的・効果的な執行				2.8	3.1	3.0
評価指数 4(期待以上) 3(ほぼ期待通り) 2(やや期待を下回る) 1(改善を要する)								
校務分掌								
分掌	番号	重点目標との関連	具体的方策	評価			●今期の課題○次期必実施項目	
				前期	後期	年間		
教務部	1	1-①	学習指導要領に対応した学習評価(3観点別評価)の実施と研修	3.0	3.0	3	●様々な観点で評価する必要がある。引き続き定期考査に頼らない評価の実施。	
	2	1-②	研究公開授業の実施と授業改善の推進	-	2.7	2.7	●実施形態を工夫する必要がある。	
	3	4-②	生徒募集の強化(高校説明会・体験入学・情報発信)	3.0	3.0	3.0	●高校説明会が体育館で一斉形式が減ってきており、少人数形式になりつつある。丁寧な説明と体験入学への参加を促していく。 ○今年度実施した中学生向けの販売実習、部活動体験日はブラッシュアップさせて継続的に実施。	
生徒指導部	1	2-③	あらゆる場面を通しての挨拶・礼法の徹底	3.0	3.0	3.0	○朝の挨拶運動や清掃活動の継続	
	2	3-① 3-③	情報モラルや情報リテラシーの周知徹底	3.0	3.1	3.1		
	3	2-② 3-④	各部の伝統を継承し、高い目標を設定し挑戦	3.0	3.1	3.1	○空き部室の有効活用 ●部活動加入率を上げる	
進路指導部	1	1-③	キャリア教育の充実	2.9	2.9	2.9	●1・2年次の進路指導の重要性 ○「キャリアナビ」の浸透性を図る	
	2	2-③	生徒が主体的に進路を選択できるよう指導・助言する(常時指導)	2.9	3.2	3.1	○個別指導も含めた学校全体としての取り組みの継続	
	3	4-③	地域と連携した活動への積極的参加を促す	2.4	2.6	2.5	●活動履歴を自ら作る努力を促す ○「キャリアナビ」の活用	
環境保健部	1	2-①	環境問題に係る学習の充実	3.0	3.0	3.0		
	2	3-②	日々の清掃活動を充実させる取り組み(取りかかり・実践)	2.0	2.0	2.0	●清掃分担及び清掃区域の検討 ●長期休業、土日のトイレ清掃の相談有り→部活動に協力してもらう。	
	3	3-③	防災・救急救命・感染症対策に関する教育の実施	2.0	2.0	2.0	○地域の防災担当者(防災士)との協力体制の基に避難訓練を実施していきたい。 ●地教科と協力の基に、「感染症対策」等の学習を充実させていきたい。 ○危機管理マニュアルの見直し終了→防災・救命等、マニュアルの有効活用。	
図書渉外部	1	1-④	生徒の興味・関心に基づいた選書支援	2.8	3.0	2.9	●読書対象書籍(約2万冊)を処理し、生徒たちが読書しやすい図書館づくりを推進した。 ●市立図書館の団体貸出しを利用することにより、幅広いジャンルの本を生徒に出会いやすさが増えた。 ○市立図書館の団体貸出しを定期的に利用。また、可書機からiPad/PCをもらいながら、学校図書館内の蔵書配置等をしていく。 ○新しい図書館利用の先駆けとして3年生のおすすめ本紹介やリレー小説の創作開始など、図書委員のアイデアを取り入れながら協力して実施することができた。	
	2	3-①	図書館利用規定の周知徹底と遵守指導	3.0	3.0	3.0	●旧図書室の整理を処理することにより、多目的に活用できるスペースになった。来年度も活用していきたい。 ○単なる「読書センター」ではなく、生徒たちが情報収集する場として活用できるように、引き続き改善を努めたい。 ○朝の読書では自分で本を持ってきて読む生徒が増えたが、図書館の本を借りて読むという生徒も増えた。	
	3	4-①	学校行事参加についての保護者への協力依頼	3.0	3.0	3.0	●PTA組織についても時代に即した組織変換の見直しを図っていくことが必要である。 ○PTA役員との連絡を常に行い集まっていたことで、次年度のPTA役員選出をスムーズに行うことができた。 ○市立地区PTA秋季研修会では事務局として各学級PTA役員・保護者と連携しながら運営することで各学級からの参加があり、講演会も好評であった。次年度も引き続きPTA役員・保護者と協力しながらPRを工夫し続け、各行事の運営を進めていく。	
事務部	1	2-① 2-④	教育環境の整備に係る点検と改善	3.0	3.0	3.0	[実績]・管理棟・外壁・防水改修工事、商業棟・情報処理棟2階廊下改修工事(本評執行整備課工事) ・施設管理室空調設備工事、情報処理棟階段室工事、総合実践室空調更新工事、卓球場庇大井撤去工事、電話設備更新工事、女子トイレ洋式化工事、グラウンド西側サンダスト採排、第2小会議室新設 ○次期も必要な工事、修繕等を計画的に行っていく。 ○現在も丁寧な窓口・電話対応を行っているが、次期も同様に行っていく。	
	2	3-③	来校者等に対する丁寧な窓口対応	3.0	3.0	3.0		
	3	4-④	物品等の計画的・効果的な整備	3.0	3.0	3.0	[実績]・教職員用耐付き椅子34脚交換、情報処理棟OAチェア78脚交換、情報処理棟有線キーボード84台交換、室名札13部更新交換 ○次期も計画的、効果的に整備していく。	
1学年	1	1-① 1-③	探究活動を通じて、地域と学校の連携を深め、地域の発展に貢献できる生徒を育てる。	2.5	2.7	2.6	○探究活動や部活動、ボランティア活動等を通して地域との連携や地域発展へ参与する機会ができた。積極的に参加する生徒が出てきた。 ●探究活動のグループ活動に積極的・意欲的に取り組む生徒が多くなった。 ●「探究」での学びを次年度に繋げていくことが課題である。	
	2	2-③	商業人としての礼節やマナーを意識し、仲間と共働し実践できる態度を育てる。	2.6	2.8	2.7	●礼節・マナーに慣れ、礼節やマナーで構える行為が見られた。また問題行動が複数あったので厳格な指導が必要である。 ●友人関係において言動に匂い面があるので、他者を尊重する気持ちや場に恥じない振る舞いを身につけてほしい。	
	3	3-④	学校行事や学級活動の充実、部活動加入の推進により、感謝や思いやりの心を持つ人間性を育む。	2.8	2.9	2.9	○学校行事や学級活動、部活動加入について多くの生徒が意欲的に取り組んできた。 ●自分の好きなこと、やりたいことだけを努力する面が見られるようになってきた。 ○次年度もやるべきことをきちんとやる姿勢を育んでいきたい。	
2学年	1	1-① 1-③	自ら問題や課題を発見し、解決に向けた学習活動を推進するとともに、進路実現に向けた学びの充実を図る	2.6	3.3	2.9	○進路学習で具体的な進路を絞れてきた生徒も増えてきている。3年での進路決定への取り組みが重要である。 ●3年次に向けた進路情報収集に対する取り組みが少い。資格・検定試験の合格率も取組次第でもっと上がったと思う。 ○LHRを活用し、進路学習を回した。これからの進路選択の目的が明確である。進路指導部と連携し、早い段階での取組が必要である。●進路面に関して面談を数回実施することで第一希望を絞ることができた生徒も増えたが、まだ迷っている生徒が多い。 ○不安感を減らしながら高い目標に向けて努力させる。●進路実現に向けた学びがどれほど充実したのかが見えていない。○探究活動を通して、課題発見や解決に向けた取り組みが、進路学習や課題研究などに活かせることを期待する。	
	2	2-③	学校生活を通して、ルールやマナー遵守を常時指導し、規範意識を育てる	2.7	3.0	2.9	○3年生として後輩たちに部活動参加校としてのルール等模範を示してこれからのことを期待したい。●朝の良いと思うが、一部で自分本位の生徒も見られる。●学校のルールに関して意識を喚起する機会も増えてきた(心の声がすく出てしまう物も多い)ことを規範意識につなげていく。●校でのルールやマナーは意識して取り組んでいるが、校外での意識も高めたい。●ルール、マナーを守らなければならない。●規範意識を高めたい。●規範意識を高めたい。	
	3	3-② 3-④	部活動や学校行事を通じて、仲間や人間関係づくりを推進し、周囲を思いやる心を育てる	2.8	3.0	2.9	○部活動や学校行事を重んじることにより、絆が深まり、まとまりの強いチームになった。●第三者が心配になるような言葉遣いも減った。●部活動や学校行事を通じて、仲間や人間関係づくりを推進し、周囲を思いやる心を育てる。●部活動や学校行事を通じて、仲間や人間関係づくりを推進し、周囲を思いやる心を育てる。●部活動や学校行事を通じて、仲間や人間関係づくりを推進し、周囲を思いやる心を育てる。	
3学年	1	1-③	面談やガイダンスを通じて適切な進路選択を促し、進路実現に向けた活動の充実を図る	2.9	3.0	3.0	○進路の手続きにおいてWeb出願がメインとなり、ひとりひとりに割く時間が減っている。進路指導部と学年が連携して、担任のサポートをする必要がある。 また、総合型選抜を受験する生徒が増え、就職試験の書類出願や面接指導と時期が重なっているため、その対策が急務である。	
	2	2-③	日々の学習活動や行事等で主体的に行動し、協働する態度を育てる。	3.0	3.0	3.0		
	3	3-② 3-④	清掃活動や部活動を通じて、周囲の方々に感謝できる豊かな人間性を育てる	2.8	2.8	2.8	○まずは職員が一緒になって清掃する環境をつくり、その後、生徒が主体的に清掃活動を行える環境を整えることが大切	

各教科重点目標と達成手段

評価指数 4(期待以上) 3(ほぼ期待通り) 2(やや期待を下回る) 1(改善を要する)							
教科	番号	重点目標との関連	具体的方策	校務分掌			●今期の課題○次期必実施項目
				評価			
				前期	後期	年間	
国語	1	1-①	3観点評価につながる意図的・計画的な授業展開の実施	3.0	3.0	3.0	3観点評価を常に意識し、授業を展開した。 積極的に言語活動を実施し、評価に繋げることができた。 ●計画的な授業の展開 ○計画的に授業を展開し、言語活動をさらに充実させる。
	2	1-③	生徒の個々の進路実現に向けた国語力向上の推進	3.0	2.6	2.8	生徒の状況に応じて支援することができた。 ●生徒の理解度や基礎学力の差 ○個別指導による生徒の国語力の向上
	3	1-④	読書を通じた論理的思考力の養成や他者理解のための想像力の醸成	2.3	2.3	2.3	生徒の読書習慣の個人差を埋められなかった。読書から論理的思考力の養成や他者理解のための想像力の醸成を引き出すまでに至らなかった。 ●読書の推進○図書部との連携
地歴公民	1	1-①	課題を解決したり追究したりする活動を通して、地理・歴史・公共を学習する意義を生徒に理解させる。	3.0	3.0	3.0	現代の諸課題や歴史につながる世界情勢を考えながら、地歴公民を学習する意義をある程度、生徒に理解させることが出来た。
	2	1-②	世界と日本を相互的な視野から捉える学びを通して、異文化交流のできるグローバルな人材を育成する。	2.5	2.5	2.5	●異文化交流のイメージは出来てものの、文章に書いて表現する力はまだ足りない。今後の課題である
	3	1-③	教員間同士で定期考査問題の検討し、作成技術を向上させる。	2.5	2.5	2.5	大学入試共通テストを参考にしながら、定期考査にも思考力を高める問題を導入し、様々な視点を取り入れながら問題作成技術を向上させることがある程度出来た。
数学	1	1-①	数学の学習内容と日常生活との関連性を学び、興味関心を高めることで深いのある学習につなぐ。	2.5	2.5	2.5	●教と式の習得が今一つであり、例えば2次関数など他の単元を学習しても正解が導けないことが多かった。6月まで基礎力を補う取り組みを行っている学校が多くなっているが、本校も検討する時期にきている。
	2	1-②	既習の学習内容をもとに、自分たちで考える授業展開を工夫し、思考力を養う。	3.0	2.5	2.8	●グループ学習や教え合いを希望する生徒が多く、教え合いの中で学習内容が深まっている場合が多い。一方、聞いて理解する力が下がっているように感じており、この点の工夫改善が必要である。
	3	1-②	基礎学力の定着させるための学習内容や指導方法を検討し実践する。	2.5	2.5	2.5	●1年生の学科別の学力基が例年に比べて大きいように感じながら指導した。指導方法を見直す必要を感じた1年であった。
理科	1	1-①	科学的に正しい判断に基づいて行動できる能力の育成	3.0	3.5	3.3	●日常の問題に対して科学的根拠を持って解決方法を考えるような授業中の投げかけやレポートを課した。
	2	1-②	身近な現象に対して深い洞察力を養う授業作り	2.5	3.5	3.0	●ICTを活用し身近な現象を積極的に取り上げたが、もっと深めるために実験を通して現象の再現や変化を観察させ、原因と結果の考察をさせる。
	3	1-③	理科を学習する意義を理解し、主体的に学習できる生徒の育成	2.5	3.5	3.0	●実験のプロセスや考察を重視し、プレゼンテーションやレポートを通じて生徒の理解度と主体性を評価するなど、評価の方法を確立し評価計画を生徒へ提示する。
体育	1	1-① 1-②	生涯スポーツにつながる実践を求め、運動の特性や意義を理解し、お互いに協調性をもたせながら、自主的・自発的な展開に繋げられる教材・教具の工夫に取り組む。	3.0	3.0	3.0	○教材・教具の工夫に関して、生涯スポーツにつながる情報を積極的に紹介していく。また、ICTの積極的活動の時間を増やしていく。 ●ICT活用がまだ、消極的であった。 ●演技に関し、協調性を持たせる活動が少なかった。
	2	2-② 2-③	個人並びに集団でも挨拶やマナーなど状況に適した行動がとれ、様々な機会でも活用できる生徒の育成を図る	3.0	3.0	3.0	○授業開始、終了後の挨拶、集団活動でのマナー、安全に効率的に動ける生徒を育成すべく、「考えて動く」授業を展開する。 ●「考える」時間の確保 ●意欲的にやる気を持って授業に臨むための授業の工夫が必要。
	3	3-④	授業で身につけたことが部活動でもさらに活かされ、さらなる質の向上につながる部活動の活性化そして本校の活性化につながる主体性のある生徒の育成に取り組む。	3.0	2.5	2.8	○各部活動の活性化の為、キャプテン会や部長会、部活動生集会の充実。 ●生涯スポーツ(身体を積極的に動かす)への動機付けが少なかつた。 ●「主体的に動く」ための授業を検討する必要を感じた。
英語	1	1-①	4技能5領域の定着を図る。	3.0	3.5	3.3	●1,2年生で全英英検3級を取得できなかった生徒への個別指導を実施し、次回の模定で合格できるようにフォローしたい。
	2	1-① 1-②	英語で積極的にコミュニケーションを図る能力・態度を養う。	3.0	3.5	3.3	●パフォーマンステストの評価について、Can Doリストやルーブリックを示し、事後の生徒へのフィードバックを工夫することができた。
	3	1-① 1-③	異文化を積極的に理解しようとする態度を養うとともに、自国の文化を積極的に発信しようとする態度を養う。	3.5	3.0	3.3	●エリーサー先生と積極的に交わることができるよう、休憩時間などにも英語で交流、発信する機会を増やし、また、壁面アートなどを作成したい。
家庭	1	1-①	生活の中の課題発見、解決へとつなげる授業展開、ワークシートの工夫	3.0	3.0	3.0	日常生活に関わる内容を取り入れ、課題の発見や解決につながるような問いかけはできた。●教科の横断的な学習の内容を考える
	2	1-②	3観点評価の単元ごとの評価方法の研究	2.0	2.0	2.0	●4クラス一斉に実施できる単元テストの実施方法を考える
	3	4-②	家庭クラブ活動の推進、外部講師の活用	2.5	2.5	2.5	●校内において主体的に活動できるような声かけや仕掛けを工夫する
商業科	1	1-① 1-②	生徒に思考を促し、考える楽しさが実感できる授業に向け、日々の授業改善、学力向上に取り組む。また、教育課程に対応した効果的な授業の展開や教材の開発と共有化、評価の方法の研究に努める。	2.8	3.0	2.9	ポスターや動画制作に時間をかけてじっくり取り組むことができ、生徒の主体的・積極的な姿勢を引き出した。 指導教師の公開授業を通して、「資質・能力を育む授業づくり」について商業科職員全員で考える機会を持つことができた。授業改善に繋がる良い取り組みであった。 ICTソフトが日々進化する中、教員側もそれに応じたスキル向上が不可欠であるため、今後は関連する研修へより積極的に参加しければいけない。 ●検定試験の日程に合わせてことと対話的で深い学びの両立が課題である。 ●教科の魅力や社会とのつながりを共有し、生徒の意識を向上させる働きかけが不足し、次なるステップに向けた土台作りが十分であったとは言えない
	2	2-③ 3-④	生徒を鍛えることをためらわず資格取得に積極的に挑戦する意識を育て、「自ら学び続けられる生徒」の育成とともに、部活動の活性化を図り、高度な専門力と人間力の育成を図る	2.9	2.8	2.9	●生徒を「鍛える」根幹は密なコミュニケーションにあると考えているが、教務や部活動指導に追われ、教科担任として一人ひとりと十分に対話する時間を確保しきれなかった。
	3	4-②	地域や産業界との連携を図り、自ら課題を発見して解決する能力や生涯にわたって自発的、創造的に学習に取り組む態度を育て、主体的に社会に貢献できる生徒の育成を図る	2.8	2.9	2.9	外部講師によるデータサイエンスやRESASの指導が、創造的学習のきっかけとなった。 課題研究を通じた商品開発・販売により、地域社会との実効性のある連携が実現し、地域課題に対してより主体的に取り組むようになった。 ○安全策を優先しすぎたことで、活動が消極的になった面がある。今後は事業所への積極的な訪問や、生徒主体のトラバ&エラーを許容する弾力支援に注力したい。 ○どのグループがどの企業と動いているか、連携状況の把握が商業科内で不十分であった。全体の活動を集約し、しっかり次年度に引き継ぐ必要がある。

学校行事重点目標と達成手段

評価指数 4(期待以上) 3(ほぼ期待通り) 2(やや期待を下回る) 1(改善を要する)						
行事	重点目標との関連	具体的方策	校務分掌			●今期の課題○次期必実施項目
			評価			
			前期	後期	年間	
HR活動	4-① 4-② 4-③	集団や社会の形成者として主体的に参画する態度や他者との協働を学び自己実現を図ろうとする態度を養う。	2.6	3	2.8	●探求の時間などを通して主体的な問いや学びを意識するようにはなっていたが、学習時間の確保についてさらに声かけをしていきたい。●修学旅行や学校行事では、自分の役割を把握しながら積極的に動けたと感じる。ただ、あまり関係性のないクラスメートとどれたけコミュニケーションを取るかが重要だと感じる。
朝の読書	1-① 1-③ 1-④	読書を通して得た知識・情報を教養(知識×考える力)まで高める。	2.8	2.8	2.8	
部活動	2-② 2-③ 3-① 3-④	目標に向けて取り組む継続力、計画を立てる先を見通す力、チームとしての協調性、目標を成し遂げた達成感を養う事によって人間力の向上を図る。	3.0	3.0	3.0	●未加入者が3割程度いるので、魅力ある部活動の取り組みを行わなければならない
定期考査 単元テスト	1-① 1-②	学校内規に基づいて実施され、定期テスト・課題テストにより得られる評点によって成績評価が行われる。これにかえて単元テスト等による評価を行うことも可能である。	3.0	3.0	3.0	●単元テストをする教科も増え、多面的な評価を実施できている。引き続き定期考査に頼らない評価の実施。
全校集会 学年集会	1-③ 2-② 3-③	社会性(公的な場と私的な場との違いを認識)、他者を思いやる気持ちを身に付ける。	3.0	3.0	3.0	○3年生としての自覚もだが、社会に出ること、成人者としての在り方についても学ばせていきたい。○4月からは最上級生として更にリーダーシップを発揮して欲しい。●一部の生徒ではあるが、集会を聞く姿勢ももう少し考えて欲しい。ただ、全体的に聞く態度・姿勢は良いと思う。
歓迎遠足	2-② 3-① 3-②	学年を超えて親睦を図ることで、学校全体の団結力を養い、勢いのある学校づくりに資する。	4.0	-	4.0	3年に1度の青島遠足で生徒会企画は講評であった。
生徒会 専門委員会	1-③ 2-① 2-④ 4-①	生徒会・委員会活動を通し、都商を生徒たち創造していく力やそのためには先を見通して計画をし、実践していく力を養う。	3.0	3.0	3.0	●自転車ヘルメットの校則化に向け取り組みなければならない
朝の挨拶 清掃活動	2-② 2-③ 3-② 3-④	部活動生徒等の有志による自発的な活動により、礼儀正しい活気ある学校をつくることにも、参加生徒は、思いやり、忍耐力、協調性を養う。	2.0	2	2	○清掃分担表の見直し(日々の清掃に必要な場所等の見直し) ○清掃区域の決定 ●清掃活動の啓発活動(自主性) ●清掃に関する意識の高揚
検定試験	1-① 1-② 1-③	自己の学習到達度を知る有効な手段として活用し、日常の自宅学習を有効活用することで、合格に向け自ら継続的に粘り強く学習する態度を育てる。	2.8	2.6	2.7	●指導内容に興味関心を持たせることはできたが、資格取得の面では、一部の生徒に達成感を持たせることができなかった。
進路模試 進路行事	1-① 1-② 1-③	対外模試による客観的学習到着度の自己認知機会・意識付け→運営→振り返り。	2.9	2.9	2.9	●基礎力診断テストを初めてCBT方式で実施したが、細かい部分で業者とやりとりができておらずご迷惑をおかけした。また、「小論文・志望理由書ナビ」の活用についても効果的な運用が難しかった部分もあったが、来年度のコンテンツの活用面に指針となる面もみられた。 ○来年度より「キャリアナビ」を導入予定です。研修等も含め、より効果的な運用を促していきたい。